

1. 研究テーマ

「スパイスを用いた地域交流」

2. 研究目的

本校では商業の実践活動として課題研究を行っている。しかし、地元地域の方々と直接交流する機会が少ないのが現状である。そこで、スパイス（商品）を活用した交流の場を設けることで、地域の方々と触れ合いながら、高校生の活動を知っていただくとともに、地域社会への貢献を目指す。

3. 研究内容

本校で開発した商品「赤穂CuRRY SPiCE」は今年度より販売されているものの、まだ地域の方々などには広く認知されていない。しかし、私たちは単なる商品の販売だけでなく、このスパイスを活用して地域の方々との交流のきっかけにしたいと考えた。そのため、スパイス自体に馴染みのない地域の方々と高校生と一緒にスパイスについて学び、実際に触れ、どのように使用するのかを体験できる交流活動を計画した。

研究実践Ⅰ 伊那中学校での取り組み

伊那中学校では、文化祭「泉が丘祭」の一環として、探究学習プログラム「マインクエスト」が設定されており、中学生がさまざまな講座を通じて学ぶ機会がある。私たちはこの機会に参加させていただき、スパイスをテーマとした交流活動を実施することにした。

まず、中学生は一般の方々と比べてスパイスに関する知識が少ないと考え、基礎的なスパイスの知識を学んでもらうことから始めた。スパイスの種類や保存方法、効能、役割などを説明し、特に香りを実際に嗅いでもらうことで、五感を使ってスパイスを体験

する機会を提供した。スパイスの香りを嗅いだ瞬間、「わぁ！」という驚きの声上がる場面もあり、興味を引き出すことができた。



次に、学んだ知識をもとに、中学生一人ひとりがオリジナルスパイスを作るワークショップを実施した。スパイスの香りや色味、辛さなどを考慮しながら、自分だけのオリジナルブレンドを調合する作業は、創造力を刺激する良い機会となった。中には、粉状のスパイスをこぼしてしまったり、種類を混同してしまうといったハプニングもあったが、それもまた学びの一環として楽しんでもらうことができた。

—中学生の感想—

・自分はこれまでスパイスはすべて辛い物だと思っていたけど、辛くないものもあると知り驚いた。ほかにも何がスパイスなのか保存の仕方や歴史まで知ることができスパイスの面白さを感じた。ほかにもどんなスパイスがあるかなどスパイスについてもっと知りたくなった。

・今日自分で好きなようにスパイスを作ってみてクミンとかそのスパイスだけでカレーのにおいがすることにびっくりしました。ほかのスパイスもそれぞれのにおいが違ってはじめて知ったからびっくりしました。自分で作ったスパイスは結構感覚でいろんなものを入れてみたけどそれはそれで楽しかったし、食べてみるのが楽しみです。次のマイチャレンジでスパイスについてやってみても面白そうだなと思いました。そしてスパイスについてたくさん学べてうれしかったです。

今日は、スパイスについて、赤穂高校の商業科の方に、教えていただきました。すごくスパイスのことを好きになりました。知らなかったことを今日、このマインクエストで知れてよかったです！めっちゃ楽しかったです！自分の家でも、作ってみようと思いました！今日はすごく楽しかったです。

・同じスパイスでも全然違う香りがしたり、イメージしていた香りと違ったのでちょっとびっくりしました。それに、あんな人口っぽいにおいだった胃腸薬にもスパイスが入っていたことにびっくりしました。作ったものにけっこうチリを入れてしまったので食べる時恐ろしいです。家族で作ってから物好きなくせに辛い物が苦手な父とチャレンジしてみたいと思います。

・今までカレーのスパイスについて考えた事はなかったけど、いろんな種類があったりそれぞれ良い特徴があってすごく面白かったです。しかも自分の好みでガラムマサラを作れるなんて最高でした！楽しかったです！

研究実践2 長野県総合教育センターでの取り組み

長野県総合教育センターでは、「産業MIRAIフェア」に参加し、一般の方々向けのオリジナルスパイス調合のワークショップを実施した。会場は本校がある駒ヶ根市から少し離れた塩尻市で行われた。他校の展示発表が多く、本校とは異なる参加形態だったため、ワークショップに興味を持ってもらえるか不安があった。

しかし、開始すると予想を超える多くの方々が訪れ、「私もやりたいです！」「僕もやってもいいですか？」と積極的に声をかけてくれた。私たちも自然と熱が入り、調合の説明に

力を込めることができた。参加者の楽しそうな様子を見て、この交流を実施して本当に良かったと感じた。

また、総合教育センターでは「赤穂CuRRY SPiCE」の販売も行った。当初はワークショップの前後で販売する予定だったが、好評につきワークショップ開始前の販売で完売した。販売活動に対して不安もあったが、スパイスを全く知らないお客様にも積極的に声をかけ、コミュニケーションを取ることで、より多くの方々に購入していただくことができた。結果として、お客様との距離が縮まり、より深い交流につながったと実感している。しかしワークショップ後に、商品を購入希望した方には販売することができなく、参加者が調合したスパイスと本校で販売している赤穂CuRRY SPiCEを食べ比べすることができないことは非常に残念であった。

4. 反省と今後の展望

今回の交流活動を通じて、多くの方にスパイスについて正しい理解をしていただくことができた実感している。普段スパイスを意識する機会は少ないかもしれないが、この交流を通じてスパイスに興味を持ち、カレーを食べる際に私たちの活動を思い出してくれることを願っている。

このようなワークショップは、地域の方々と交流する貴重な機会となった。事前にワークショップのシミュレーションを行い、実際に調合する流れを体験していたが、参加者の創意あふれる調合アイデアに驚かされた。今後はさらに新しい調合に挑戦し、美味しいカレー作りを探究していきたい。

また、ワークショップと販売活動を組み合わせることで、地域への認知度向上に相乗効果があると感じた。私たちの活動に興味を持っていただけたことを嬉しく思い、今後もこの活動を継続していきたいと考えている。

